

ナットウキナーゼ (NSK-SD) による高血圧患者への影響調査

1. 目的

高血圧前症 (pre-hypertension) またはステージ 1 高血圧患者の血圧へのナットウキナーゼ (NSK-SD) 摂取時の効果を確認。

2. 試験方法

ランダム化、二重盲検、プラセボ対照試験。試験食品またはプラセボ (疑似) 食品を 8 週間摂取させ、収縮期血圧、拡張期血圧、レニン活性を確認した。

3. 試験対象者

試験前の収縮期血圧 130mmHg~159mmHg の 20~80 歳 86 名

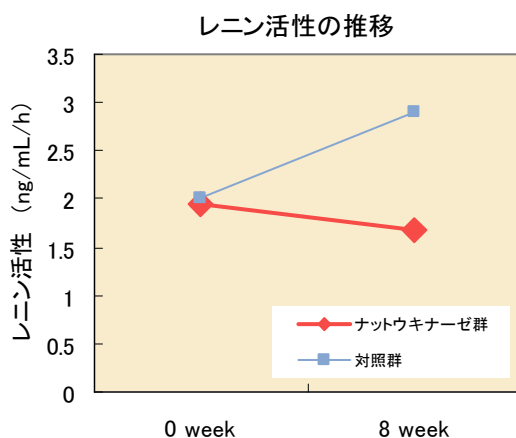
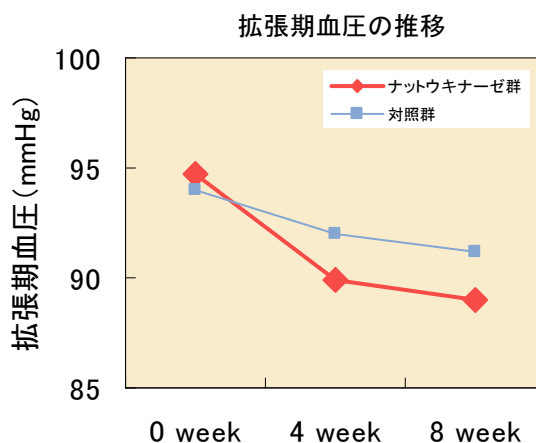
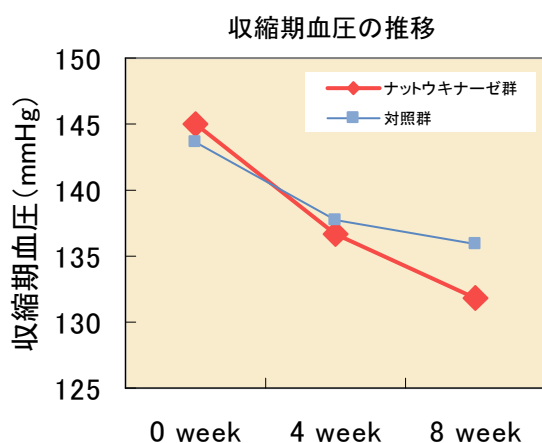
4. 試験食品

ナットウキナーゼ (NSK-SD) 2,000FU 配合ハードカプセル 3 粒

5. 試験結果

8 週間の試験後、73 名の参加者がプロトコルを終了。

試験食品 (ナットウキナーゼ) 摂取群は、プラセボ食品摂取群に対し、収縮期血圧および拡張期血圧ともに有意に低下した。またレニン活性の変化も同様に有意に低下した。



※レニンは血圧を上昇させる体内酵素のひとつ。レニン活性を低下させることによって、血圧が下がることが分かっている。

<参考文献> Effects of Nattokinase on Blood Pressure : A Randomized, Controlled Trial. *Hypertension Research* Vol.31, No.8 (2008)

本資料の一部または全部を許可なく無断で転記することを禁じます。